

令和4年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体
生活支援コーディネーター提供資料

令和4年9月15日から10月12日の間、瀬戸市内の居場所（よりどころ、せとらカフェ）に対して提供資料別紙1の内容について電話で聞き取りを行った。なお、結果は提供資料別紙2のとおりであり、結果に対して以下のとおり考察を行った。

1 回答数 50件（よりどころ 43/45 セとらカフェ 7/10）

2 聞き取り調査からの考察

(1) コロナ禍における居場所の開催について

令和2年3月より新型コロナウイルス感染症がまん延し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対応が繰り返される中、多くの地域の居場所も休止を余儀なくされた。

令和4年度に入り、多くの居場所で再開されているが、コロナ禍における開催に対して不安を抱きながら開催している状況である。

令和4年9月1日現在も11か所の居場所が休止しており、高齢者が多く集まる場所であることや個人宅開催や会場の制限等の環境等の要因から再開できないところもある。また、運営者の要因として、休止により開催に対する運営者の意欲減退も挙げられ、開催中の居場所においても1か所が開催頻度を月2回から月1回に減らしたとの聞き取りがされた。

再開した居場所においてもコロナ禍に対する対応として「多くの人に参加を」と思う反面、参加者増加に対する懸念を持っており、周知、啓発に葛藤を抱いている。

また、休止期間中に体力が低下してしまい、居場所へ来ることができなくなった人も多くおり、運営者も継続開催の必要性を改めて感じていることは強くうかがえた。

地域の方々は「地域の居場所」「外出する機会の創出」の必要性はコロナ禍でも強く感じていることは明らかである。半面、新型コロナウイルス感染症への不安も強く抱いていることから、「地域の居場所とウィズコロナ」を視点に置いた、具体的対応策の提示が必要である。

(2) 地域の居場所運営について必要と感じる支援について

① 運営者（担い手）への支援

地縁組織等で開催している居場所は複数の運営者が協力して実施ができるが、個人で開催している居場所は負担と不安を感じつつ運営をしていることが明らかとなった。特に高齢の運営者が多く、体調面で何かがあった場合に開催ができなくなることへの不安を抱えており、実際に運営者の入院により休止が続いている居場所も存在する。

運営者への担い手面での支援策を考える必要があると考える。

② 居場所への移動の問題

コロナ禍で体力低下により居場所へ通うことができなくなった方や免許返納や自転車に乗ることもできず、移動手段が徒歩しかない方で居場所まで通うことができない方も多くいるとの聞き取りがされた。

このことから地域への点在化も必要だが今ある居場所への移動支援についても並行して考える必要があると考える。